

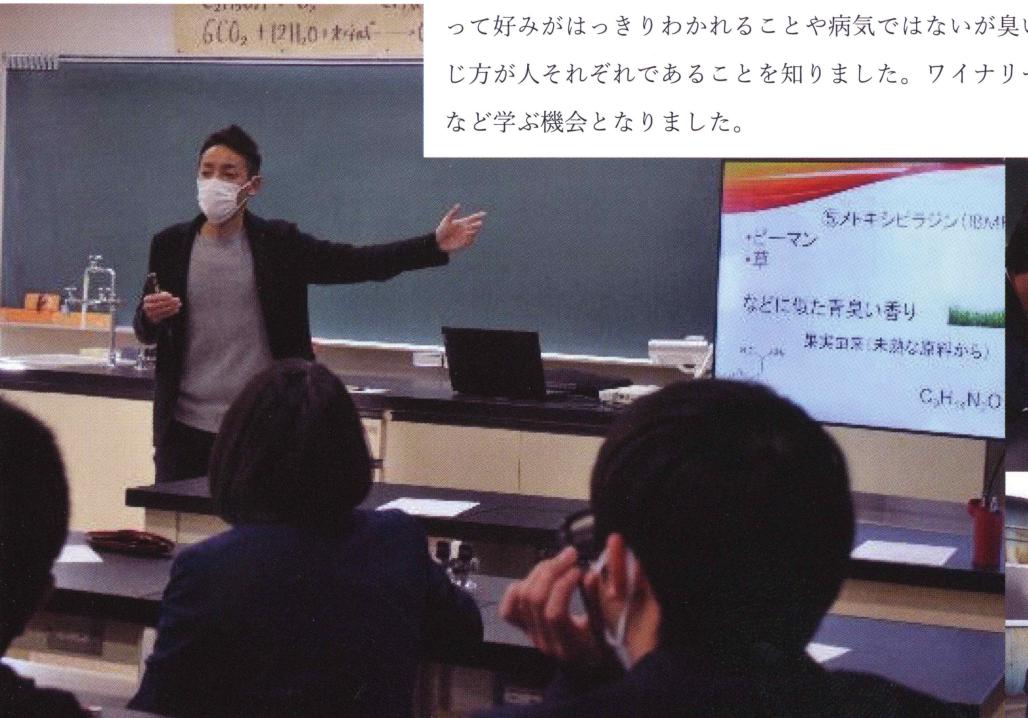
地域とつながる学びの先に



「新型コロナウイルスとまちづくり
～高校生から高齢者までが協力してできること～」
地域の方とグループワークを行いました。短い時間ながら、
共通の活動を通じて大きく成長することができました。



「甲斐サーモン商品開発プロジェクト」
商業科の課題研究の授業の一環で、山梨県の新たな特産品開発に取り組みました。甲州市や
業者の方と協力し、商品の味付け、商品名、パッケージデザインなどを行い、「燻製甲斐サ
ーモンレッド～縁（えん）」を完成させ、実際に甲州市内の観光地で販売していただけること
になりました。この活動を通じて、一つの商品をゼロから作り上げる大変さを学ぶことができ
ただけでなく、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身に付けること
ができました。



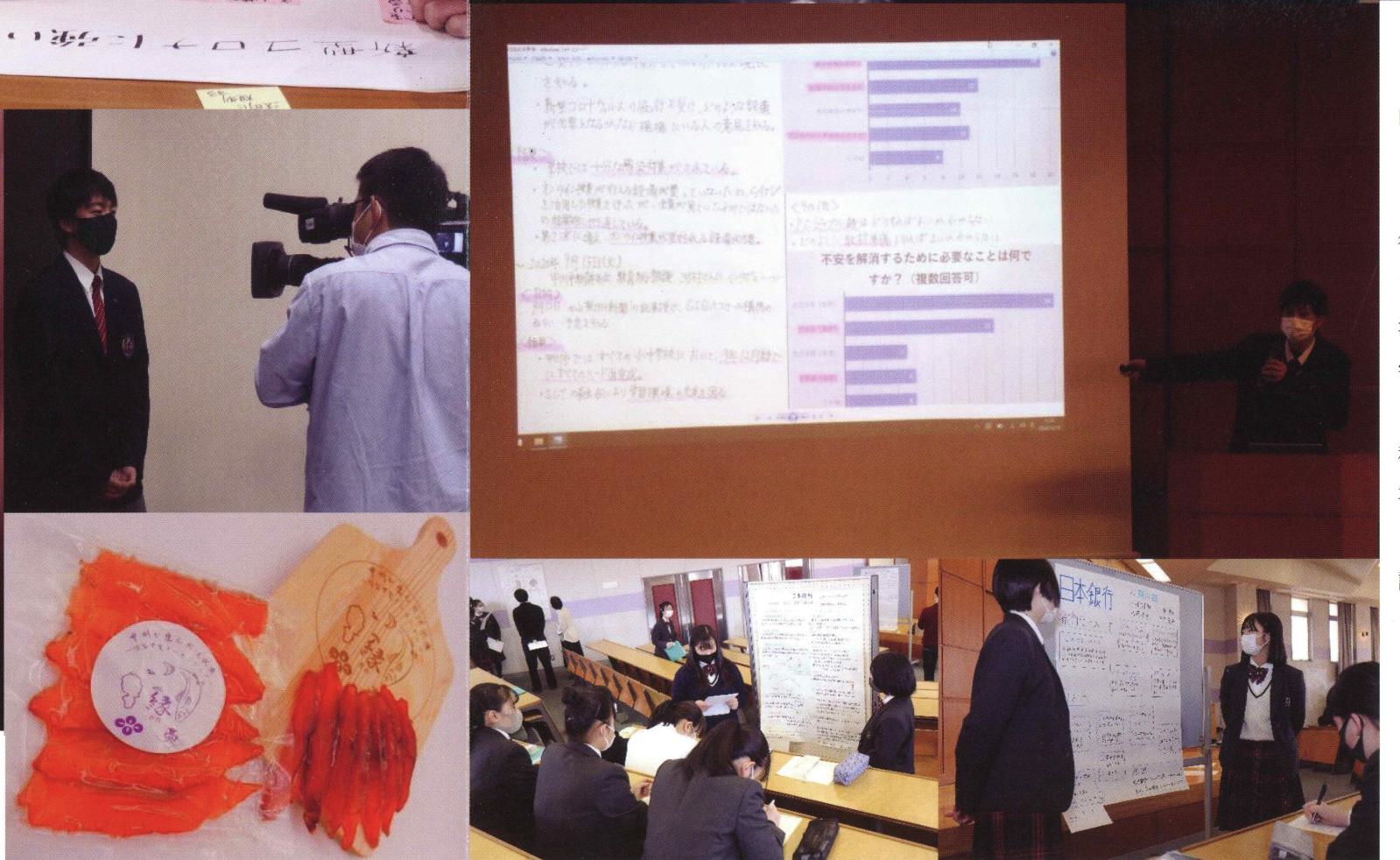
「ワインから香りを学ぶ～プラスとマイナス～」

2年生英数コースでは、塩山洋酒醸造株式会社代表取締役・山梨大学ワイン科学士である萩原弘基氏をお招きして、地域に根ざした科学技術であるワイン醸造について学びました。香りは人によつて好みがはっきりわかることや病気ではないが臭いを感じ取れない人もいて、香りについて感じ方が人それぞれであることを知りました。ワイナリー見学もさせていただき、仕事に対する意識など学ぶ機会となりました。



「総合的な学習の時間 活動発表」

3年生は1年を通じて調査研究してきた内容を発表しました。将来教員を目指している生徒は、新型コロナウイルスと教育の関係をテーマに探究した活動報告をしました。今後教育において導入が進むICTの活用について、技術力や応用力などソフト面の問題解決が鍵になることを、アンケート等を通じて学びました。将来看護師を目指している生徒は、病院でのコロナウイルス対策を通じて、私たちも感染対策をしっかりすることが大事だと訴えました。自分自身で作成したポスターも披露しました。発表した生徒は人前で話すことに緊張していましたが、発表を終えこの活動のやり遂げた達成感や充実感を感じていました。1年生は、様々な職業の方にインタビューしたことをまとめ、ポスターセッションを行いました。新型コロナへの対応を直に聞き、職業の意義や自身の将来を考える貴重な機会になりました。



新たな自分と出会えるチャンス。